
いきなりやばいことが

紺とすん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いきなりやばいことが

【Nコード】

N8135Y

【作者名】

紺とすん

【あらすじ】

こんなことが起こったらどうしよう。たいしたことではないけれど。

ちっと手を見る。

ちっと手を・・・ん？

なんだかやばいことが。

細かいことを気にするな、と言われれば、それまでだけど。

気を取り直して。もう一回ちっと手を見る。手といっても手のひらの方ね。

・・・やっぱりやばいことが。

もったいつけてごめん。よし単刀直入に言ってみよう。

何がやばくて問題か、それは、手相、手相です。

手相が、気が付いたら、わたしの手相が、まるっと変わってしまったのでしたよっ！

さあ、こまった。

これを誰にうつたえたらよいのだろうか。

もしも顔のパーツが変わったのであれば、あるいは体の部位のサイズが急激に変わったのであれば。いやあ困っちゃったんだよね、と、相談のしようもあり、同情のされようもあるけれど。

手相が変わってしまったって、誰が信じてくれる？

でも実は大事件でしょう、これ。かなりの怪奇現象といって過言じゃない、よね？

あー、普段から手相を見せあいつこする趣味でも持っていれば。それが、ひつじょうに珍しい手相にでも変わったのであれば。

言い忘れましたが、もともと平凡な手相が、平凡な別の手相にまると変わっていたのです。いいえ、気のせいではありません。

平凡なAさんの顔が平凡だけどまったく別の顔と交換されていたら、それは大変な問題である。それと同じでしょう？ 大騒ぎでしょう？ だけど。

だけど、まあ、顔が変わったのと違って、日常生活には支障はない、といえないこともない、のかな。

支障はない、ということでもよろしいでしょうか、と自分にむけて再確認したところで、怪奇現象、おかわり、みたいな。

「よ、よお」

わたしの記憶が正しければ、ここは某大学の女子寮の一室。二人部屋だけドルームメイトは本日外泊。よって今夜はわたし一人きりのはずの部屋、に、突如あらわれた大学の同級生、爪川くん。

「あ、うん」

一応、返事はしてみたけれど。

「元気そう、だね」

「う、うん。そうかな」

実は本日夕方、好きですお付き合い願えませんか的なことを、わたしは爪川くんに言ったのだった。

爪川くんはどちらかといえば口べたで、そんなところもずつきだったのだけど。

「それで、どう？」

「どうっていわれても・・・」

そう、そのときもこんなふうに、首をかしげてサラサラの前髪を指先ではらいつつ、彼は言ったのだった、「きみに恋の魔法をかけてあげるよ」って。

ぞぞぞぞわつと、引くでしょう、そんなこと言われたら。「君の瞳に乾杯」と二択でもきびしいでしょう。なので、前言撤回、尻尾巻いて逃げる、という出来事があつたわけなのだ、そのとき。

もともと玉砕覚悟ではあつたんだ。でもまさか、こんな展開になるうとは。

よりによって恋の魔法って、魔法・・・うん？ いやあな予感が。

「ちゃんとかかった？」

「えええええー！　もしかして、魔法って、手相のこと？」

「ってことは、成功か」

「やだこれ、爪川くんのせいなの？」

「今のところ、僕が使える魔法ってこれだけなんだ」

「うそ。この場所に瞬間移動って言うの？、してる方がすくなくない？」

「いやこれ、兄貴に頼んだんだ。瞬間移動は現在練習中で・・・」

といつてるところに話題の兄貴がいきなり登場。その兄貴の横には美人さんがひつついている。

ちなみに、爪川兄も同じ大学の一つ上の学年に在籍中。

爪川兄弟はタイプは逆だがどっちも人目をひくので、ほとんど大

学名物なのだ。

「こんばんはー。説明おわった？」

美人さんが言う。たしか、爪川兄の彼女さんだ。よく一緒にいるのを見かける。

「まだ途中」

「とろいなおまえ、さっさと済ませろ」

爪川兄が爪川くんをこづく。

「お互い好きだって確認できた時点で魔法がかかって手相が変わる、以上でーす」

美人さんは声もかわいい。かわいいのはいいけれど・・・

「魔法って、これいったい何の役に立つの？ 実はとっても幸運な手相だったりとか？」

どうやら状況がわかっていないのはわたしだけらしい。

「ごめんね。そういう手相ではないんだ。それにその手相は、これからずっと戻らないんだ」

申し訳なさそうに言う爪川くん。そんな表情もすてきだ、がしかし。

「すいません。わたし、状況についていけません。三人とも、お引き取り願えませんか」

「最初は驚くよねー。でもだいじょぶ、すぐ慣れるから」

再び美人さん。あなたも魔法使いなんですか。

「もちろん、役には立つさ。所有印みたいなものだから、防虫効果は最高」

爪川兄が不吉なことを言う。

「ほらほら、見て見てー」

美人さんがわたしの横に並んで立って、左右の手のひらを並べて見せてくれる。

細い指。じゃなくて！

「な、なにこれ、手相で爪川って書いてある！」

メインの線はたしか、感情線、頭脳線、生命線だったわけ？ それと細かいしわで左手のひらに「爪」、右手のひらに「川」。

「正解ー。はい、おそろいー」

美人さんがわたしの手のひらを同じように並べて、良く見ればそこにも、ぎよ、ぎよえー！ 爪、川！！

「と、いうわけで、わたしたちは義理の姉妹になるのよねー」

「説明も終了したし、記念にれつつじゃんぷ」

爪川兄が宣言すると、四人一緒に瞬間移動。気が付けばどこぞの野外展望台に立っていた。

ぼけらーっと放心状態で星を眺めながら、わたしは思ったのだった、姓の方だけなんだから、少なくとも兄弟のチェンジは可能なのね、と。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8135y/>

いきなりやばいことが

2011年11月24日01時53分発行